

MG natural

私自身、様々なボランティア活動への参加を通じて、多くのことを学び、それらは自分の成長や新しい自分の発見につながった。そして、仲間や地域の人にも出会う良い機会となった。明学の中に面白い学生がこんなにもたくさんいると知ったのも、ボランティア活動を積極的に始めてからだ。そんな人達との関わりが今でも自分にとって良い刺激となっている。ボランティア活動を通しての自分の体験をぜひとも多くの人に伝え、ボランティアを明学に広めたいと思うようになり、それを形にしたのがボランティア情報紙『MG natural』である。「ボランティアを“自然”なことにするために。“ボランティア活動にかける思い”をナチュラルに伝えたい。学生に愛され、“自然”と手にとってもらえるフリーペーパーを作りたい。」という思いを込めて、『MG natural』という誌名にした。

創刊号となる今回、9月に掲載する内容を検討し、10月から白金学生スタッフの展開している各プロジェクト担当学生に原稿を依頼し、ボランティア活動を積極的に行っている明学生にインタビューを行った。次に、すべてのページのレイアウトや記事の編集作業に没頭した。どうすれば多くの人に読んでもらえる面白い記事になるのか。それは、簡単なようで難しいことだった。見た目はいくらかでも変えることができるが、読み物である以上、いくら見た目を良くしたところで内容が伴っていなければ面白くない。ただ単にプロジェクトの概要を説明しただけでは、何も伝わらない。活動に関わった学生たちがどのようなことを学んだり、感じたか、それを1番に伝えることを考え、作業を進めていった。

実際は、創刊号ということもあって、すべてが手探り状態で、なかなか思うように作業が進まなかった。毎日遅くまで学校に残り、編集作業に明け暮れた。しかし、周りの人のサポートと励ましがあったからこそ、形にすることができた。11月に完成品が届いたときは、今までの苦勞があった分、充実感でいっぱいだった。多くの人から、「すごいね。」「良かったよ。」と声をかけてもらうたびに、頑張ったよかったと思った。特に嬉しかったのは、授業教室内で知らない明学生がMG naturalを読んでいるのを見かけた時だった。多くの人の手にとられていることを実感した瞬間だった。

今後も自分たちが何を伝えたいのか、それを常に念頭に置きながら作っていかねばならないと思う。そして、次号、第3号と刊行数を重ねるごとに、ボランティアのさらなる輪ができていくことを願っている。今回は、予算の関係で、200部しか作ることができなかったため、他大学との交流などでボランティアセンター学生スタッフについて話す際に手元に残部がなくて、ボランティアセンターHPにアップしたPDFを閲覧してもらうしかなかった。次号はぜひ部数を増やしたいと思っている。また、今回は人員不足のため、作業が個人に集中しがちになってしまった。今後は仲間を増やし、また後輩に技術を教えながら作っていきたいと考えている。

※『MG natural』はボランティアセンターホームページからダウンロードできますので、ご覧ください。

(心理学部心理学科2年 須賀 ゆきの)

